

私のモチーフ

オウム貝とからすうり

会員 田原 充子

私の大好きな母がまだ健在だった頃、郷里土佐の桂浜を一緒に訪れた

折、独特な海辺の雰囲気を感じ出し、折、独特な海辺の雰囲気を譲し出していた大きなオウム貝の貝殻を数個手に入れた。



▲ 貝のある静物 F100

桂浜は「月の名所は桂浜」と、よさこい節に歌われていて高知市南部浦戸湾口にある砂浜、景勝地で坂本竜馬の銅像がある。竜馬は土佐藩郷士。西郷隆盛、小松帯力、木戸孝允らと計り薩長連合を策し、大政奉還に尽力。そんな理由で私にはオウム貝と桂浜は不可分

な記憶がある。

オウム貝は形と貝殻の縞模様それぞれ異なる魅力的であり「生きた化石」と呼ばれ、古代への想像がきたてられる。それ以来、私の作品にはしばしば登場するようになった。

オウム貝は巻貝のような殻を持ち、貝殻を側面から見るとオウムの頭部に似るのでこの名がある。殻内には30個内外の小室に分けられ、動物体は最後の室（佳房）に収まる。頭部には多数の短い触手がある。



▲ 貝のある画室 F100

フィリピンからミクロネシア海域の深海に生息し、日本には死殻が流れ着くことがある。オウム貝類は古生代後期から中生代前期にかけて繁栄した古い形の動物で、同属で現存するのはインド洋、太平洋の熱帯域に7種だけ。「生きた化石」と呼ばれている。

私のもう一つのモチーフは、からすうり。ある日、隣人から真赤な採りたてのからすうりの実が沢山届けられた。何と美しかったことか。それ以来このからすうりも私の作品に



▲ 貝のある画室 F100

家路について
ことを憶えて
いる。それ以
来、海に関連
したモチーフ
での制作が多
くなった。

☆「画室の風
景」(二〇一
一年)

我が庭で
育った植物が
登場する。野
鳥が運んで来
た種子から、
八手の木が大
きく育ち晩秋
可愛い黄白
色の小花を多
数球状につけ
る。葉の形状にも興味が湧く。中央
の器(ビールジョッキ)は親友と
旅に出た折、ドイツの空港でひと目
で気に入ったもの。

小品のモチーフには庭の椿、パン
ジー、クレマチス、薔薇の花、紫陽
花、ポインセチア、魚の干物、果物、
野菜等の身近の愛らしい物が登場す
る。裸婦・着衣の人物画は千葉市展

に出品することが多い。
環境はいろいろと変化するが、女
性として何時でも自分の意見を言え
る時代、絵という芸術を通して自分
を表現し、一期一会の出会いに感謝
し、人生を自分でデザインすること
の大切さを痛感している。



▲ 画室の風景 F100

登場するようになったが、最近は大
んだんと開発が進み同場所では見う
けられなくなった。
からすうり(烏瓜)はウリ科の蔓
性多年草で山地に生える雌雄異株。
夏、白色で縁が糸状に裂けた美花を
夜に開き晩秋実が赤く熟す。果肉は
荒れ止めの化粧水を作り種子は薬
用、食用。

☆「貝のある静物」(一九九八年)

画室にある大きな古いステレオと
結婚祝に学友から贈られた円い鏡、

コンポートに入れた貝々、ステレオ
の側にポール・デルボーやアンド
リュウ・ワイエス等の画集を配置
し、午後のクラシック音楽を耳に
しつつ制作していた頃の作品。

☆「貝のある画室」(二〇〇四年、
二〇〇五年)

ある夏の暑い日、貝殻を沢山描い
ている私を、絵画教室の仲間が船橋
(千葉県)にある魚具専門の店に案
内してくれた。ガラスの浮、舵輪、
大小の網等を両手一杯に買い求めて

☆「画室の風
景」(二〇一
一年)

我が庭で
育った植物が
登場する。野
鳥が運んで来
た種子から、
八手の木が大
きく育ち晩秋
可愛い黄白
色の小花を多
数球状につけ
る。葉の形状にも興味が湧く。中央
の器(ビールジョッキ)は親友と
旅に出た折、ドイツの空港でひと目
で気に入ったもの。

小品のモチーフには庭の椿、パン
ジー、クレマチス、薔薇の花、紫陽
花、ポインセチア、魚の干物、果物、
野菜等の身近の愛らしい物が登場す
る。裸婦・着衣の人物画は千葉市展